

令和3年度事業報告

(自 令和3年4月1日 ～ 至 令和4年3月31日)

公益財団法人岡田茂吉美術文化財団

I. 美術館運営事業

1. 展覧会の開催

MOA美術館を年間300日、箱根美術館を年間312日、それぞれ開館運営し、尾形光琳筆国宝「紅白梅図屏風」をはじめ、所蔵する日本及び東洋の美術品を中心に特別展、企画展、平常展を開催した。

(1) MOA美術館 (総入館者数 197,113名)

- ① 伝説の絵師 岩佐又兵衛 三大絵巻展 —山中・浄瑠璃・堀江一挙公開—
令和3年3月12日(金)～4月20日(火) (期間入館者数 25,717名)
出陳件数 8件

江戸時代初期の絵師・岩佐又兵衛勝以(1578～1650)の作品のうち、操浄瑠璃の正本を詞書とした極彩色絵巻群を代表する重文「山中常盤物語絵巻」、重文「浄瑠璃物語絵巻」、並びに「堀江物語絵巻」の三絵巻を一堂に展観した。

- ② 粋と艶 —江戸のトップスターたち—
令和3年4月23日(金)～6月8日(火) (期間入館者数 19,271名)
出陳件数 65件

江戸時代、芝居や遊里が人々の関心を集めるなか、写楽や歌麿、葛飾北斎といった浮世絵師たちは、人気歌舞伎役者の姿や演目内容、評判の遊女や茶屋で働く看板娘を数多く描いた。本展ではこれらの浮世絵をコレクションの中から紹介した。

- ③ 没後80年 竹内栖鳳 —躍動する生命—
令和3年6月11日(金)～7月27日(火) (期間入館者数 15,860名)
出陳件数 32件

明治から昭和にかけて、京都画壇の中心として活躍し、四条派の伝統を引き継ぎながら独自の表現を生み出した竹内栖鳳(1864-1942)の没後80年を記念し、「熊」「夏鹿」「若き家鴨」「宇佐幾」など、躍動的に描かれた優品の数々を紹介した。

- ④ クイズで楽しむ「富嶽三十六景」と「東海道五十三次」
令和3年7月30日(金)～9月7日(火) (期間入館者数 20,829名)
出陳件数 104件

浮世絵風景版画シリーズの双璧をなす葛飾北斎「富嶽三十六景」と歌川広重「東海道五十三次（保永堂版）」の全作品を展覧し、スマホを使ってQRコードを読み取ることでクイズに答え、楽しみながら美術品を学ぶ企画として実施した。

⑤ #琳派

令和3年9月10日（金）～10月26日（火）（期間入館者数 22,392名）

出陳件数 46件

日本独特の琳派の美意識やその情報を多くの人々と共有することを願い、所蔵する琳派作品の展示に加え、SNSを通じて学芸員による琳派に関するレアな情報の発信や、展示室でのQRコード読み取りによる画像を活用した作品解説などを行なった。

⑥ 所蔵 茶の湯の道具

令和3年10月29日（金）～12月12日（日）（期間入館者数 33,355名）

出陳件数 78件

所蔵の茶道具コレクションを厳選して取り合わせ、各時代における茶人の好みについて紹介しつつ、茶の湯の魅力を紹介した。特に茶道具の使い方がわかる動画を制作し、QRコードを読み取って視聴できるようにした。

⑦ 木版画紀行 吉田博と川瀬巴水

令和3年12月18日（土）～令和4年1月25日（火）（期間入館者数 28,987名）

出陳件数 76件

生涯を通じて国内外の各地を旅行し、その写生をもとに、それぞれ異なった表現と技法で木版画を制作した吉田博（1876-1950）と川瀬巴水（1883-1957）を取り上げ、日本および世界を描いた清新な風景版画約80点を紹介した。

⑧ 開館40周年記念名品展 第1部

令和4年1月28日（金）～3月27日（日）（期間入館者数 47,393名）

出陳件数 73件

開館40周年を記念し、「紅白梅図屏風」をはじめ京焼の大成者・野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」、三大手鑑のひとつとして著名な手鑑「翰墨城」の国宝3件の同時公開に加え、コレクションの各ジャンルを代表する名品を精選して展覧した。

⑨ 特集陳列 室井東志生が描いた坂東玉三郎

令和3年10月29日（金）～12月12日（日）

出陳件数 8件

「熱海座 人間国宝 坂東玉三郎舞踊公演」にあわせ、日本画家・室井東志生がライフワークとして情熱を傾けて取り組んだ主題、坂東玉三郎を描いた作

品を展覧した。

(臨時休館)

- ① 令和3年5月16日(日)～5月17日(月)
館内テナント従業員に新型コロナウイルス感染症感染者発生、消毒措置のため
- ② 令和3年7月4日(日)～7月7日(水)
熱海土石流災害の救助隊(消防署等)基地として駐車場を全面提供したため

(2) 箱根美術館 (総入館者数 62,302名)

- ① 常設展示
 - (a) 令和3年4月1日(木)～令和4年3月30日(水)
重要文化財1件を含む縄文から江戸時代に至る日本古陶磁を中心とした常設展示を開催した。
 - (b) 別館
令和3年4月1日(木)～令和4年3月30日(水)
創立者岡田茂吉の生涯と事蹟を、自筆書及びパネル等により紹介した。
- ② 特別展示
 - (a) 令和3年10月29日(金)～令和3年12月1日(水)
展示室1にて「大正・昭和初期の木版画」展の開催
 - (b) 令和3年12月3日(金)～令和4年3月23日(水)
展示室1にて「現代の工藝」展の開催
 - (c) 令和4年3月25日(金)～令和4年3月30日(水)
展示室1にて「吉田博」展の開催

(臨時休館)

令和3年7月3日(土)大雨警報と箱根全山通行止めのため

2. 調査研究

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

以下の研究課題の3年目は、コロナ禍により、予定していた東南アジア地域の作品調査は延期を余儀なくされた。この間、文献調査による研究活動を継続し、国内で刊行された当該地域の漆芸に関する文献を調査集積し、現行の研究状況を改めて確認した。

研究課題名：環南シナ海・インド洋海域が育む近世螺鈿の諸相と貝文化圏の構想
—シェルロード

研究代表者：内田篤呉

3. 賛助会員（友の会）の拡充

会員数 7,700名

4. その他

(1) 季刊誌の発行

財団活動を広く知らせるための「美の友」誌を、4月・7月・10月・1月の4回発行し、MOA美術館来館者と友の会会員に配布した。

(2) 美術品や美術品画像データ等の貸出と意匠の許諾など

美術品の貸出しを、別紙資料1の通り行った。

II. 表彰・コンクール事業

1. 第32回MOA美術館児童作品展

子どもたちが日頃取り組んでいる創作活動を奨励し、豊かな情操と美への関心を培うことを目的とした表記の全国展を開催した。併せて、その前に各地で行なわれる地方展への支援（参加賞の提供等）を実施した。

(1) 選考方法

- ① 全国各地において、実行委員会による地方展を開催し、「絵画の部」、「書写の部」の各最優秀作品を決定した。

令和3年度：238会場 応募数165,061点 参加校4,884校

海外参加7か国（アメリカ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、チリ、タイ、スペイン）

- ② 地方展で選ばれた各会場最優秀作品は、MOA美術館の全国展審査会において、文部科学省の教科調査官をはじめ美術教師、大学教授、書道協会会員等により文部科学大臣賞などの各賞を決定した。

(2) 賞の種類と点数

① 絵画の部（220点）

- (a) 文部科学大臣賞 6点
- (b) 外務大臣賞 3点
- (c) 厚生労働大臣賞 1点
- (d) 農林水産大臣賞 1点
- (e) 環境大臣賞 1点
- (f) 日本PTA全国協議会会長賞 1点
- (g) 全国子ども会連合会会長賞 1点
- (h) ボーイスカウト日本連盟理事長賞 1点

- (i) 審査員賞 2点
- 金賞から入選 203点

② 書写の部 (80点)

- (a) 文部科学大臣賞 6点
- (b) 厚生労働大臣賞 1点
- (c) 農林水産大臣賞 1点
- (d) 環境大臣賞 1点
- (e) 日本PTA全国協議会会長賞 1点
- (f) 全国子ども会連合会会長賞 1点
- (g) ボーイスカウト日本連盟理事長賞 1点
- (h) 審査員賞 1点
- 金賞から入選 67点

③ 団体の部

- (a) 文部科学大臣賞学校奨励賞 6校
- (b) 厚生労働大臣賞 2実行委員会

(3) 表彰ならびに展覧会の開催

展 示：1月8日（土）～2月16日（水）

入賞入選300点と団体の部をMOA美術館円形ホールに展示した。

表彰式：1月30日（日）10：00～11：00

感染拡大防止のため、能楽堂におけるオンラインによるライブ配信の形式で式典を開催した。

(4) 児童作品展ホームページ開設準備を行った。(2022年4月1日公開予定)

2. 芸術選奨

賞の交付

- ① 東日本伝統工芸展 MOA美術館賞
- ② 日本伝統工芸展 奨励賞
- ③ 日本伝統漆芸展 MOA美術館賞

Ⅲ. 体験活動等の事業

1. 日本文化の体験

茶の庭や茶室、茶道具等に触れて抹茶を喫する茶の湯を通して、日本文化を体験する事業を、美術館開館日に、MOA美術館の茶室一白庵及び箱根美術館の茶室真和亭において行なった。

また、日本の伝統的な建築（光琳屋敷、茶室）や庭園、或いは、能楽や舞踊、美術工

芸、和食などの日本文化に触れ、体験する下記の事業を実施した。

(1) 体験プログラム（お茶、お花など）

① 旅行社とタイアップした茶室見学・体験

日経カルチャー、クラブツーリズム等をはじめとする各旅行社とタイアップし、MOA美術館の光琳屋敷や茶室一白庵のガイドツアーを実施し、日本の伝統的な建築・庭園空間を五感でお客様に味わっていただく取り組みを行った。

当ガイドツアーの内容は、近隣観光施設の従業員研修や東海地区の教育者・美術愛好者グループの研修等にも活用され、その受け入れを行った。

② 光琳乾山忌茶会

令和3年6月2日・6月3日に京都で開催を予定していた光琳乾山忌茶会は、新型コロナウイルス感染症流行のため中止した。

③ ワークショップ（箱根美術館）

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会と連携し、他館とのミュージアムリレーを5月12日に開催し、展示解説、茶室体験等のプログラムを行なった。

(2) 能楽教室 体験・講座と能楽鑑賞

能楽器体験、能楽講座と能・狂言の鑑賞を行った。

期 日：令和3年8月25日（水）

講 座：小鼓方大倉流 大倉源次郎

演目解説：能「黒塚」講師：シテ方宝生流 辰巳満次郎

狂言「盆山」講師：狂言方和泉流 野村萬斎

鑑 賞：宝生流「黒塚」 辰巳満次郎他

和泉流「盆山」 野村 裕基他

参加者数：能楽器体験 60名、講座と鑑賞 334名

(3) Kōgei Dining 熱海会場（文化庁・日本博との共催行事）

鑑賞するだけでは知ることのできない工芸のもつ「用の美」を、参加者自身の手で確認していただく貴重な機会を提供することを目的として開催した。

期日：令和3年11月21日（日）～11月25日（木）

プログラム

<昼の部> 令和3年11月21日～25日 9:30～17:00 計5日間 82名参加

① MOA美術館内自由鑑賞

② 人間国宝 卓話

（講師）11月21日 藤沼昇 11月22日 大角幸枝 11月23日 林駒夫

11月24日 室瀬和美 11月25日 土屋順紀 各氏

③ 食事会（会場：MOA美術館 花の茶屋）

花の茶屋料理長による和食

④ 人間国宝 坂東玉三郎 舞踊公演

⑤ 工芸作品展示販売

<夜の部> 令和3年11月25日 9:30~19:00 34名参加

① MOA美術館内自由鑑賞

② 人間国宝 卓話 (講師) 室瀬和美

③ 人間国宝 坂東玉三郎 舞踊公演

④ 工芸作品展示販売

⑤ 食事会 (会場: MOA美術館 パティスリー・ヨロイツカ)

鎧塚俊彦氏によるフレンチディナーと料理紹介

日本芸術文化振興会理事長 河村潤子氏の挨拶

文化庁前長官 宮田亮平氏による乾杯

IV. 主催公演・講座・セミナー事業

1. 主催公演

伝統文化等の普及と芸術鑑賞会を通じた情操教育として、能楽堂における定期演能会やコンサート等の公演を行った。

(1) 熱海座公演

① 「演能会」

期 日: 令和3年5月22日(土) (入場者数 465名)

演 目: 能 「葵上」 梓之出 空之祈 観世流 観世清和 他
狂言 「長光」 大蔵流 善竹十郎 他

② 井上涼 びじゅチューン! ライブ 2021 in 能楽堂 琳派でござる

(入場者数 AM 360名、PM 378名 計 738名)

期 日: 令和3年9月20日(月)

会 場: MOA美術館・能楽堂

③ 「千住真理子ヴァイオリンコンサート」(入場者数 459名)

期 日: 令和3年10月16日(土)

演 奏: ヴァイオリン/千住真理子 ピアノ/山中惇史

④ 熱海市土砂災害復興支援「別府アルゲリッチ音楽祭フィルムコンサート」

期 日: 令和3年8月13日、14日、15日(各日2回上映 入場者数 785名)

⑤ 「坂東玉三郎舞踊公演」

期 日: 令和3年11月21日(日) (入場者数 481名)

令和3年11月22日(月) (入場者数 484名)

令和3年11月23日(火) (入場者数 488名)

令和3年11月24日(水) (入場者数 484名)

令和3年11月25日(木) (入場者数 491名)

演 目: 口上~衣裳解説

長唄「老松」 長唄「賤の小田巻」

出 演：舞 踊／坂東玉三郎
三味線／杵屋勝国 長唄／杵屋勝四郎 囃子／田中傳左衛門
箏／川瀬露秋

⑥ 「演能会」

期 日：令和3年11月27日（土）（入場者数417名）

演 目：能「紅葉狩」 宝生流 宝生和英 他
狂言「昆布売」 大蔵流 山本泰太郎 他

⑦ 鈴木優人&読売日本交響楽団メンバーによる室内楽

J.S. バッハの調べ

期 日：令和3年12月26日（日）（入場者数488名）

出 演：チェンバロ：鈴木優人 フルート：フリスト・ドブリノブ 他

⑧ 新春獅子舞

期 日：令和4年1月2日（日）（3回公演 入場者数792名）

出 演：関古式囃子保存会

2. 主催講座

(1) 光輪花クラブ

- ① 創立者の願いである生活の芸術化を具体化すべく、光輪花クラブにおいて美術品、短歌、茶の湯等の学びを取り入れたテキスト、カリキュラムに基づき「美的生活コース」「芸術コースⅠ」「芸術コースⅡ」を推進した。

（会員合計数 5,181名）

② 花サロン

生活の器を工夫していけばなの楽しみ方を提案する6回型の光輪花講習会を開催し、光輪花クラブ入門コースとしての役割を持たせる。

③ キッズ光輪花クラブ

光輪花クラブの子ども版として「キッズ光輪花クラブ」を開催した。

④ 光輪花クラブ開講インストラクターへの支援（規準に基づく経費補助）

⑤ 光輪花クラブを広報するためのいけばな展の開催、及び各種いけばな展に参加した。また光輪花クラブホームページの制作を進めた。

(2) イタリア・ボローニャ大学「岡田茂吉・美の講座」

イタリア・ボローニャ大学との協定に基づき、岡田茂吉哲学の研究と普及を進めるべく、春学期5回、秋学期4回の講座を開催した。

V. 育成事業

1. MOA美術館ユース研修

青少年の健全な心と体の育成に資すべく美術教育の普及に努め、活動の牽引役とな

る青年人材育成のため、MOA美術館ユース研修（2回、21名）を開催した。

2. スクールプログラム

(1) 版画「東海道五十三次」を活用した出張美育セミナーの実施

- ① 令和3年4月28、30日の両日、鳥取県南部町の施設「キナルなんぶ」にて会見第二小学校全校17名、会見小学校6年33名、南部中学校3年41名、法勝寺中学校3年60名、西伯小学校5年60名を対象に実施。
- ② 令和3年11月1日（月）、熱海市立桃山小学校5年生12名
- ③ 令和3年11月10日（水）熱海市立多賀小学校3年生50名
- ④ 令和4年3月10日（木）岩倉市立南部中学校2年生108名
- ⑤ 令和4年3月11日（金）岩倉市立岩倉中学校2年266名

(2) 日本工芸会と共催した工芸家のアウトリーチ授業の実施

運営および実際の授業実施に関しては日本工芸会が担当し、当財団は資金支援を行った。

内容：磁器づくり教室

講師：望月集（陶芸家）、保立剛（陶芸家）、佐藤典克（陶芸家）

日時：令和3年11月4日・11月5日

対象：港区立筭小学校 5年生88名

(3) 熱海市図工部会の依頼により、当館内において美術教育の研修会を実施した。

3. 花による美育活動の推進－MOA美術文化インストラクターの育成と資格の付与

(1) インストラクター数 4,422名

(2) インストラクターの資質向上を図る研修会を、美術館及び各地区で開催した。

(3) インストラクター更新研修を実施した。

(4) 新規インストラクター審査を実施し、新たに5名に資格付与した。

(5) 光輪花クラブを中心とする美育推進会合を定期的に行う（年6回）

VI. 経営基盤の拡充

1. 経営改善

- (1) 顧客満足循環型経営への改善（職員の資質向上への取り組み等）
- ① 展覧会等の企画充実、インバウンド対策、広報発信力強化等をめざし、その方面の専門的な技能・知識を有する新規人材を、若手を中心に積極的に採用・育成した。
 - ② インバウンド対策強化の一環として、職員対象の英会話研修を実施した。
- (2) コスト削減と増収に向けた経営改善計画案などの策定
- 前年度に認可を受けた「文化観光推進法に基づく拠点計画及び地域計画」を、初年度の成果を踏まえ、地元熱海市・静岡県および関連企業・団体との協働の元、公的助成を受けながら地域の文化観光発展のための事業を本年も実施した。（全5年計画）
- （主な実施事業）
- ① 専門業者による美術品の照明や美術品用LEDスポットライトの活用
（助成内容：機材購入費用）
＜成果・効果＞
美術品の魅力がより伝わる展示に繋がり、令和4年4月1日からの大蒔絵展開幕に向けて準備を整えることができ、3/31に記者発表会を開催した。
 - ② 能楽教室 体験教室と能楽鑑賞
令和3年8月25日に実施。
（助成内容：公演委託料、チラシ作成費、体験用能面購入費）
＜成果・効果＞
334名参加。人間国宝の大倉源次郎、辰巳満次郎両氏や野村萬斎氏による演目解説により日本の伝統芸能である能楽をより身近に感じていただくことができた。
 - ③ デジタル技術を活用した美術品や諸施設のわかりやすい解説強化
（助成内容：wi-fi機器購入・設置費、茶室3D映像制作費、翻訳委託費、他）
＜成果・効果＞
 - ・来館者の利便性の向上
 - ・茶室等の文化財施設のVRコンテンツを作成し、利用いただいた来館者がより身近に施設の魅力を感じ、理解を深めていただいた。
 - ④ 外国人に対するアンケート調査
（助成内容：資料整理等賃金）
＜成果・効果＞
訪日外国人観光客の満足度調査として英語と中国語のアンケートを作成、437名の回答を得た。
 - ⑤ 伝統工芸品販売事業
（助成内容：広告動画作成に伴う機材購入費）
＜成果・効果＞
日本工芸会で活躍する作家4名のインタビュー動画と日本伝統工芸会関係の動画を累計30本以上作成し、SNSやホームページで公開、10万回以上の再生数を数え、工芸品売上が昨年度比28%上昇した。
 - ⑥ 無形文化遺産である和食を中心とする体験プログラムの推進と食の充実
（助成内容：茶懐石器製作委託費）

<成果・効果>

伝統工芸作家（人間国宝）による懐石の器の委託制作を行い、その器を使用した食事会を含む「Kogei Dining 工芸と食」（文化庁・日本博との共催）を令和3年11月21日～25日の5日間開催、116名が参加した。（Kogei Diningのプログラム内容については既出）

- ⑦ 日本庭園への誘導者数カウントシステムの導入と運用
（助成内容：カウントシステム設置費）

<成果・効果>

それまで出来なかった美術館本館から併設の日本庭園への誘導者数割合の掌握が出来るようになり、60～70%の来館者が日本庭園へ訪れていることが分かった。また、時間帯や季節、天候による誘客数の変動等も可視化され掌握可能となった。

(3) 寄付金制度（ファンディング）の推進

- ① クラウドファンディング（インターネットを通じた寄附金受付）を実施、賛同頂いた300名以上の支援者より合計1,200万円以上の寄付を受けた。
- ② 美術品寄贈に伴う寄贈者非課税の適用を受けた、1件2点の寄贈を受け入れた。

2. 入館者増加をめざした取り組み

(1) 展覧会やイベントに焦点をあてた広報・営業活動の推進

- ① ポスター掲示・チラシ配布
 - (a) MOA美術館展覧会ポスターやチラシを熱海市内420か所及び全国312か所に掲出依頼した。
 - (b) イベントチラシを作成し、熱海市内355か所に掲出依頼した。
 - (c) 市内マンション61棟を訪問しチラシ配布掲出依頼した。
 - (d) 箱根美術館特別展示のポスターやチラシを作成し、箱根町および近隣市町内の40か所に掲出依頼した。
- ② マスコミへの情報提供
 - (a) 展覧会、イベント等の情報を積極的に配信、取材の受入れを行なった。

(2) 地元市民に開かれた美術館に向けての取り組み

- ① MOA美術館
 - (a) 熱海市役所・熱海市観光団体（観光協会、ホテル旅館協同組合、商工会議所）との連携強化を図った。
 - (b) 紅葉ライトアップ（11月27日、28日、12月4、5日 合計394名参加）
茶庭の110本余のモミジの昼間とともにライトアップをして夜も楽しんでいただき、日本一遅い紅葉の熱海で、紅葉狩りの新名所となるよう継続して開催した。
- ② 箱根美術館
 - (a) 令和3年3月に施設内の庭園「神仙郷」が名勝の指定を受けたことを契機に、町民や町内の各施設、団体を招待した。

(b) 箱根町、箱根DMO、箱根プロモーションフォーラム等の観光関係団体と連携し、当館及び箱根全体への観光客誘致の連携を図った。

(3) 観光客の誘致・誘客の改善強化など

① MOA美術館

- (a) 熱海市内及び近郊の宿泊施設等へ「前売り券」の取り組みを行った。
- (b) 熱海寮保養所協会との特別提携を行った。
- (c) 近郊の宿泊施設との入館及びイベント等のセットプラン造成に取り組んだ。

② 箱根美術館

箱根強羅公園、ポーラ美術館等、近隣施設との「共通割引チケット」相互販売に取り組んだ。

(4) ホームページやSNS等による広報の充実

① ホームページの更新

- (a) 画像・動画挿入等わかりやすいページを制作するため、MOA美術館および箱根美術館のホームページの刷新を行なった。

② フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどSNSの充実

- (a) 展覧会の見どころ、イベント情報、食、四季などの発信に努めた。
- (b) 「フォロワー」の獲得数等をバロメーターに、内容充実に努めた。

3. 施設の貸与事業

能楽堂などを、伝統文化の普及をはじめ当財団の目的に沿った用途に使用する団体・個人への施設の貸出を積極的に行なった。なお、計画していた茶室の貸し出しについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本年度も中止された。

(1) 能楽堂等の貸出

- ① 4月3日 熱海「源平の絆」
- ② 4月10日 中村由利子コンサート 55名
 - ・中村ファンも久しぶりのライブで、中村さんの奏でる音楽とやさしいMCに大満足の様子でした。CDや楽譜などのグッズ販売も好評。
 - ・終演後、ヨロイズカにてお茶会（ファンの集い）も実施され22名のファンとの交流を深められた。
- ③ 6月27日 船井幸雄記念館開館5周年記念イベント 150名
- ④ 10月1日・2日 山本観衛會 延べ69名
- ⑤ 10月29日 ポール・ハリス・ソサイエティの集い 茶道遠州流関係者13名
- ⑥ 12月21日 令和3年度熱海地区安全運転管理者等法定講習 150名
- ⑦ 令和4年1月9日 熱海市成人式 243名

4. 美術館設備・施設（庭園を含む）改善・改修

美術館の安全確保に向けた対策

(1) 施設・設備の安全対策、サービス向上に向けての更なる改善・改修

- ① 箱根美術館別館 展示ケース照明更新工事
- ② 箱根美術館別館 出入口扉オートヒンジ取替、沓摺補修工事
- ③ MOA美術館 本館3階東面外壁保全工事
- ④ MOA美術館 エスカレーター3基の手摺更新工事
- ⑤ MOA美術館 能楽堂舞台照明LED化および調光システム更新
- ⑥ MOA美術館 パティスリーヨロイズカ厨房の空調機設置工事

(2) 美術館の防災、防犯の設備強化

① MOA美術館

- (a) 令和3年6月24日(木)と12月9日(木)の2回、消防署と連携して防災訓練を実施した。

また、大規模災害により来館者が美術館内で足止めをされた場合を想定した毛布・簡易トイレ・保存食料・飲料水の備蓄を追加した。

- (b) 休館日の防犯体制強化の為、昨年度に引き続き休館日における入館受付・警備を警備会社に依頼・実施した。

② 箱根美術館

- (a) 防災備品の確認や防災マニュアルの見直しを行った。

(3) 危機管理体制の整備・強化

(MOA美術館)

- ① 館内等での不測の事故に備えた賠償責任保険その他の保険加入を本年度の来客数規模に合わせて見直し、更新・継続した。
- ② 新型コロナウイルス感染症流行に伴う対策として、冒頭でも記した通り臨時休館を実施した他、開館時においては全職員がマスクを着用、設備的には入口や館施設の要所への消毒液設置、受付や飲食店舗客席への透明アクリル板の設置、手摺や手洗等の清掃・消毒の徹底などを行った。また、熱海市の補助、熱海旅館組合の斡旋による観光事業所向けの従業員PCR検査に参加し、接客部門の従業員を中心に検査を実施、感染状況の有無を把握した。
- ③ 労働基準監督署の指導に基づき、安全衛生管理体制の再構築を行い、衛生委員会の定期開催、職場巡視、定期健康診断やストレスチェックの実施等、労働安全衛生の確保に努めた。

5. 飲食及び物品販売

(1) MOA美術館飲食コーナーの運営

観覧者に美術鑑賞をゆったりと楽しんでいただくための周辺環境の整備として、以下、直営3店舗の運営を行った。

① 和食 花の茶屋

地産地消とオーガニック・自然農法素材による日本料理を提供した。

- ② the café
シフォンケーキ、ソフトクリーム等の軽食及びコーヒー等ドリンク類を提供した。
- ③ ラ・パティスリー・デュ・ミュゼー・パール・トシ・ヨロイツカ
パティシエ・鎧塚俊彦プロデュースのスイーツ店を営業。人間国宝・室瀬和美デザインによるカップ&プレートで、ケーキ、軽食、ドリンク類を提供した。

(2) ミュージアムショップの運営

- ① 箱根美術館売店「光琳堂」 箱根美術館の開館日に営業を行った。
- ② 工芸ショップ（ヨロイズカ）、オンラインによる工芸作品販売

以 上

□ 処務報告事項

1. 理事会並びに評議員会開催の件

- 理事会を令和3年4月1日より令和4年3月31日迄に4回開催した。
- 評議員会を令和3年4月1日より令和4年3月31日迄に2回開催した。

(1) 理事会に関する事

開催年月日		会議事項	
R. 3. 6. 11	議案	令和2年度 事業報告及び計算書類承認の件	可決
R. 3. 6. 11	議案	定時評議員会に提出する評議員候補者名簿の件	可決
R. 3. 6. 11	議案	定時評議員会に提出する理事・監事候補者名簿の件	可決
R. 3. 6. 11	議案	定時評議員会開催の件	可決
R. 3. 6. 11	議案	美術品寄贈の件	可決
R. 3. 6. 11	議案	コンプライアンス規程制定の件	可決
R. 3. 6. 28	議案	代表理事選定の件	可決
R. 3. 6. 28	議案	業務執行理事選定の件	可決
R. 3. 6. 28	議案	決議の省略による評議員会の件 提案事項「定款変更の件」	可決
R. 3. 8. 10	議案	「業務執行理事（中島宏平）選定」承認の件	可決
R. 4. 3. 14	議案	令和4年度事業計画書及び収支予算書承認の件	可決
R. 4. 3. 14	議案	理事会、評議員会の日程の件	可決

(2) 評議員会に関する事

開催年月日		会議事項	
R. 3. 6. 28	議案	令和2年度事業報告の件	
R. 3. 6. 28	議案	令和2年度 計算書類承認の件	可決
R. 3. 6. 28	議案	評議員6名選任の件	可決
R. 3. 6. 28	議案	理事13名・監事2名選任の件	可決
R. 3. 7. 24	議案	「定款 改定案」承認の件	可決

2. 職員の状況の件

	職員	㊦・常勤	㊦・非常勤
計	104名	46名	58名

以上